

## 自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530106

研究課題名(和文) 民主党議員の研究—集票システムと政策形成行動—

研究課題名(英文) A Study of DPJ Representatives: Electoral and Policy Making Behavior

研究代表者

堤 英敬 (TSUTSUMI HIDENORI)

香川大学・法学部・准教授

研究者番号：20314908

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：民主党、選挙キャンペーン、政党組織、政策形成過程、選挙制度改革

## 1. 研究計画の概要

本研究は、選挙制度改革が意図していた政党・政策中心の選挙競争およびその帰結としての政策凝集的な政党組織が実現したのかという問に対し、民主党議員の包括的な分析を通じて一定の解答を示そうとするものである。従来の研究は、ほとんどが自民党あるいは自民党議員を対象としており、民主党の研究は皆無に等しいのが実態であった。また、自民党が中選挙区制期の遺産を多く引き継いでいるのに対し、民主党は新選挙制度導入後に結党され、選挙制度改革後にキャリアをスタートした議員が多いことから、選挙制度改革の効果を検討する上では、好適であると考えられる。

具体的には、主に香川県における民主党議員・候補者を対象として、(1)選挙キャンペーンおよび(2)国会における政策形成活動について分析を行う。香川県は、民主党の伸張が遅れた地域であるが、その分、中選挙区制の影響は小さいと思われ、本研究の関心に照らして適当な事例と考えられる。

本研究は、民主党を対象とした研究が著しく限られている現状から、データの収集と集約を第一義的な目的とするが、現代日本における選挙政治・政党政治を総合的に理解するための一助となることを目指す。

## 2. 研究の進捗状況

これまでは(1)選挙キャンペーンの分析を主に行ってきた。具体的には、2007年参院選、2009年衆院選、2010年参院選の3回の国政選挙における民主党候補(および民主党推薦の無所属候補)の選挙キャンペーンの分析を行った。ここからは、基本的に政党組織というよりは候補者を主体とした選挙キャン

ペーンが行われていること、候補者の選挙キャンペーンのスタイルや政策的な主張は、かなりの程度、選挙区の社会経済的な環境に適合的であること、選挙キャンペーンを展開するにあたって、香川県においては未だに影響力が根強い社民党との関係が重要であることなどが明らかになった。なお、議員・候補者が選挙キャンペーンで大きな役割を果たしていることは、民主党議員を対象として実施したアンケート調査からも確認できた。

また、香川県における民主党の形成過程を分析した結果、基本的な組織としての単位は総支部すなわち国会議員(および候補者)にあり、県連組織はその結節点としての役割にとどまることが分かった。その背景には、香川県では自民党の支持基盤が固く、旧総評系労組と社民党の結びつきが強かったことがあると考えられる。すなわち、民主党として社会との関係を構築することが難しく、議員・候補者個人の持つ資源に頼らざるを得なかったといえる。

(2)国会における政策形成活動については、準備作業として、議員へのインタビューならびにアンケート調査の分析を行った。アンケートの結果からは、マニフェストに対して忠実な態度をとる議員が多かった一方で、一定の自律性を志向する傾向があることが確認された。今後、こうした知見も参考に、個別事例の分析を行っていく予定である。

## 3. 現在までの達成度

## ②おおむね順調に進展している

本研究が取り組む二つのテーマのうち、(1)選挙キャンペーンについては、継続的に複数の民主党候補を対象とした分析を行い、いずれも論文にまとめることができた(2010

年参院選の分析については 2011 年に公表予定)。また、香川県における民主党地方組織の研究に関しても、2011 年中に成果が公表される予定である。限られた事例ではあるが、これまでほとんど行われてこなかったマイクロ・レベルでの民主党候補の選挙における活動の一端を明らかにし、それが政党の地方組織の態様とどのように関連するかを示した点で、意義は小さくないものと思われる。また、香川以外の事例についても(まだ成果は出せていないが)研究に着手しており、当初の計画以上に進展していると考えている。

(2) 政策形成過程における議員行動の研究は、論文や学会報告等の形で成果を発表できていない点で、計画よりやや遅れている状況にある。ただし、議員へのアンケート調査やインタビューなどによる情報収集は進めており、2011 年度中には成果をまとめられる見通しを得ている。

以上のような進捗状況から、現在までの達成度は「おおむね順調に進展している」と判断される。

#### 4. 今後の研究の推進方策

まず、(2) 政策形成過程における議員行動の研究を進めていく。香川県内の選挙区から選出された三名の国会議員を中心に、さらに情報収集を進め、政府内および党内における議員の政策形成への関与について明らかにしたい。今日、民主党の政権運営についての関心が高まっているが、こうした学界や社会における関心に応えうる研究を行いたいと考えている。

また、こうした成果と、これまでに得られた民主党議員の選挙キャンペーンについての知見を総合し、民主党議員の行動を包括的に理解するための視点の構築に取り組む。すなわち、選挙キャンペーンを遂行する上での資源や制約が政策形成行動にいかなる影響を与えているのか、国会や党中央での活動が選挙区にいかにフィードバックされているのかを、選挙制度からの影響を加味した上で、明らかにしたい。こうしたマイクロ・レベルでの議員行動の分析を進めることで、民主党の政権運営への理解も深まることが期待される。

#### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計 1 件)

- ①堤 英敬・森 道哉「民主党候補者の集票システム：2007 年参院選香川県選挙区を事例として」『選挙研究』24 巻 1 号、2008 年、48-68 頁 (査読無)

[学会発表] (計 4 件)

- ①堤 英敬「候補者公約の継続と変容：政策

的アピールにみる政党－候補者関係」日本政治学会 於) 日本大学 (2009 年 10 月 12 日)

- ②森 道哉「民主党地方組織の形成過程：香川県の場合」日本選挙学会 於) 同志社大学 (2009 年 5 月 17 日)

- ③堤 英敬「民主党－有権者関係：政策選好と選挙前政策調整志向」日本選挙学会 於) 同志社大学 (2009 年 5 月 17 日)

- ④堤 英敬「民主党候補者の集票システム：2007 年参院選香川県選挙区を事例として」日本選挙学会 於) 日本大学 (2008 年 5 月 17 日)

[図書] (計 1 件)

- ①白鳥浩編著『政権交代選挙の政治学：地方から変わる日本政治』ミネルヴァ書房、2010 年 (堤 英敬・森 道哉「民主党候補者の選挙キャンペーンと競争環境：香川一区・二区」37-64 頁)